
ありがとう...フェアリー・フェレット。

りす君

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ありがとう…フェアリー・フェレット。

【Nコード】

N2362B

【作者名】

りす君

【あらすじ】

一人暮らしの青年が、ひよんな事で飼いだめた1匹のフェレットに助けられた奇跡且つ、哀しい結末のショートストーリー。

（前書き）

この小説は、自分の中では正直言って自信作では無いのですが、それでもお読みになられましたら光栄です。

「ありがとう…フェアリー・フェレット…。」

僕がこのフェレットを飼い始めたのは、今から2年前ぐらいか。元々、僕の家にはペットのミドリガメ“亀きち”がいたんだけど、何だか寂しい感じだったので、気分を紛らすためにこのフェレットをペットショップで見つけ、即購入に至ったのだ。

最初、フェレットと聞いたときは一発でピンと来なかったが、実物を見てみると、なァーんだ黽^{イタチ}みたいだと感じた。その愛らしい仕草と、ハムスターと同じぐらいの飼いやすさに感動してしまった僕は、そのフェレットに亀きちと同様に優しく、愛情をもって接した。…だけど、フェレットとの生活はそう長くは続かなかった…。

ある日の夜、僕がバイトから帰ってきてふとゲージを覗くと、何と…フェレットはゲージの中からいなくなっていた。

僕は突然の事で気が動転して、慌てて部屋中を探し回ったあげく、ある答えに到達する。まさか…昨日、壁を傷付けた事を本気で怒ってしまったから逃げ出してしまったのかなァと思い、急いで外に探しに出掛けた。家から数分の所に大きなバイパスがあるので、一段と不安が立ち込めていた…。そして探しに出掛けた数分後、その不安な予感的中した…。

僕が必死にフェレットを探しているとバイパスの方で声がしているので向かうと、バイパス真ん中で、小さな物体が横たわっているのが見えた。

緑の鈴が付いた青い首輪…間違いない、僕のフェレットだ…そう直感した。

事故現場に、野次馬として見に来ていた近所の人達が続々と、

「車にひかれたんだわ…、可哀想に…。」

「きつと、あの子の家のペットだわ。」

「ええーと、ふえ…フェ何とかだったっけ？ 舐みたいな奴。」

と言っているのが聴こえ、掴み掛つて怒鳴ろうとしたがあまりの突然の悲劇で声が出なく、身体が動かなかつた…。あれから数時間が絶ち、野次馬がいなくなった頃僕はやっと正気になり、急いでひかれて動かなくなっていた僕のフェレットに近寄り、優しくそつと、腕の中に抱き上げた…。

せめて安全な場所へ埋めてやろうと急いでバイパスから離れようとしたが、その途中で僕は暗闇から来る眩しい光に覆われて、衝撃と共に身体が宙に浮き、そして地面に叩き付けられた…。

大型トラックに跳ねられた僕は2週間、生と死の間をさまざまにいた。僕が、大きな花園を流れる川を舟で渡ろうとすると足下にあのフェレットがいて、ソイツは僕の足を必死に噛みつき、怯んだ隙にその舟に乗って、一回こつちを振り向き口元を動かした末に、向こうに見える樂園に行ってしまった。

まるで僕に、“まだ、死んではいけません。どうか自分の変わりに生きて下さい。さつきは勝手に出て行ってごめんなさい。”と、言っているかのようにだった…。僕はそこで意識が遠のき、目の前が真っ暗になった…。

気が付くと、周りに家族の心配した顔が映っていた。母親は、僕が目覚ますと父親に寄りかかりオイオイと泣いていた。

僕は、“フェレットは…フェレットはあの後どうなったんだ？”と必死に問いかけると母親は静かに首を横に振り、僕が跳ねられた時には、僕の腕の中に優しく包み込まれて、幸せそうな顔をして亡くなっていたと言われた。

その後、実家の方にフェレットの墓を建て、お参りにくる度に僕は

「この言葉を必ず言う。」

「ありがとう……、フェアリー・フェレット。」

（後書き）

お読み下さりありがとうございました。この小説の評価をよろしければ是非、お願い致します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2362b/>

ありがとう...フェアリー・フェレット。

2010年12月5日05時56分発行